

2017年3月20日（月）

第23回大学教育研究フォーラム 参加者企画セッション

於：京都大学吉田キャンパス

話題提供①

アサーティブ入試の成果検証を起点とした 多面的な成長の可視化

～新たなポートフォリオ構築に向けて～

追手門学院大学

入試部アサーティブ課

志村 知美

Tomomi.Shimura.py@otemon.ac.jp

お話の内容

1. 追手門学院大学の入試改革

アサーティブプログラム・アサーティブ入試概要説明

2. 共同研究の目的・途中経過と中間成果

目的

学ぶ力の分析枠組み

大学生の学びと成長を可視化する

3. 今後の進め方

入学後の成長支援も視野に収める

1. 追手門学院大学の入試改革

アサーティブプログラム・アサーティブ入試概要説明

【アサーティブプログラム】

高校生に大学で学ぶ目的を考えさせ、大学で学ぶ姿勢と意欲を持つことができるように育てる教育プログラム

【アサーティブ入試】

アサーティブプログラムの成果を発揮できる場所

【期待する効果】

- ・シラバスの活用ができる
- ・講義への参加意欲の向上
- ・各種活動への積極的参加

アサーティブプログラム

【目的】

この大学に入学してよかったと思う学生を増やしたい

【受験生像の設定】

- ◆ 追手門学院大学で学びたいという気持ちを描き、その思いを伝えられる人
- ◆ 今は確かな希望や理念がなくとも、知的な事柄への興味や活動を通じ、何のために学ぶのかを問い続け、努力する人
- ◆ 高校までの基礎的な知識や技能の習得を見直し、向上しようと努力する人

※アサーティブの意味

相手の意見に耳を傾けながら、自分の意見や考えを主張することができる態度。
すなわち自分を知り、表現することが大切になると解釈

【アサーティブプログラム3つの柱】

1. ガイダンスと本学職員との「個別面談」

オープンキャンパスも含めて年10数回のガイダンスとその際の個別面談。本学の専任職員が担当。自分を知り、大学で何を学びたいかを問い、自ら気づくように促す。この面談は、本学への受験を促すことはせず、本人の将来を一緒に考えるという姿勢で行っている。

2. 本学独自開発のシステム

基礎学力の確認と向上、計画的学習を習慣づけると同時に、追手門学院大学バカロレアで、多様な観点から考察する力を育て、自分の意見を述べる力や他者の意見を受容する姿勢を養おうとするシステム。

『MANABOSS (マナボス)』 <http://www.manaboss.com/>

3. 自己成長を促す「アサーティブノート」

このプログラムの結果を記録し、振り返ることで自己成長を促す。自分自身を主語にして記述する。

アサーティブ入試

【1次試験】グループディスカッションと基礎学力適性検査

- グループディスカッションは、1グループ5～6名で約30分の議論。
- 主体性や協調性、論理性等を評価して合否を判定（職員2名による判定）。
- 基礎学力適性検査は、MANABOSS搭載問題と同様の形式で出題。（60分40問で国語と数学）
- それぞれが一定水準以上かどうか総合的に評価して合否を判定。

【2次試験】個別面接

- 教員と職員がペアとなり、志望理由や学問に対する意欲や知的関心のレベル等を評価し判定。

アサーティブ入試結果

		2015年度	2016年度	2017年度
面談者総数 (1～3年生)	実人数	190	557	751
	リピーター	31	155	163
	延人数	221	710	906
受験対象者 (3年生)		185	538	717
出願者	A日程	91	203	261
	B日程	—	87	134
合計		91	290	395
1次合格者	A日程	80	188	144
	B日程	—	72	69
合計		80	260	213
2次合格者	A日程	53	89	130
	B日程	—	41	60
合計		53	130	190

2. 共同研究の目的・途中経過と中間報告

【目的】

アサーティブプログラム、アサーティブ入試の施策の成果を検証するなかで、高校生から大学生への学びと成長を追跡する総合的なアセスメント手法の活用とそれに基づく学生の成長を可視化する。

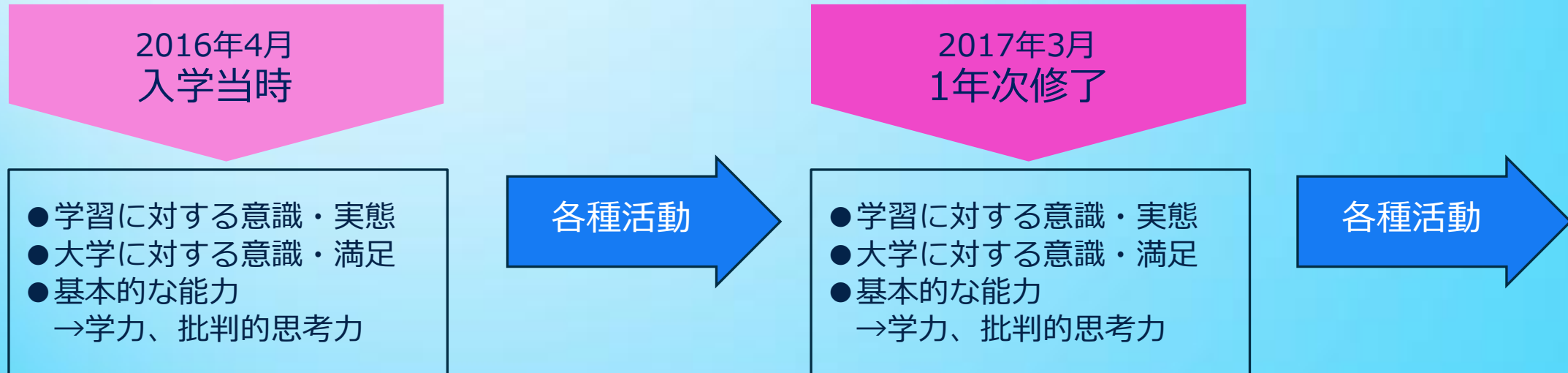
学ぶ力の分析枠組み

【目的】

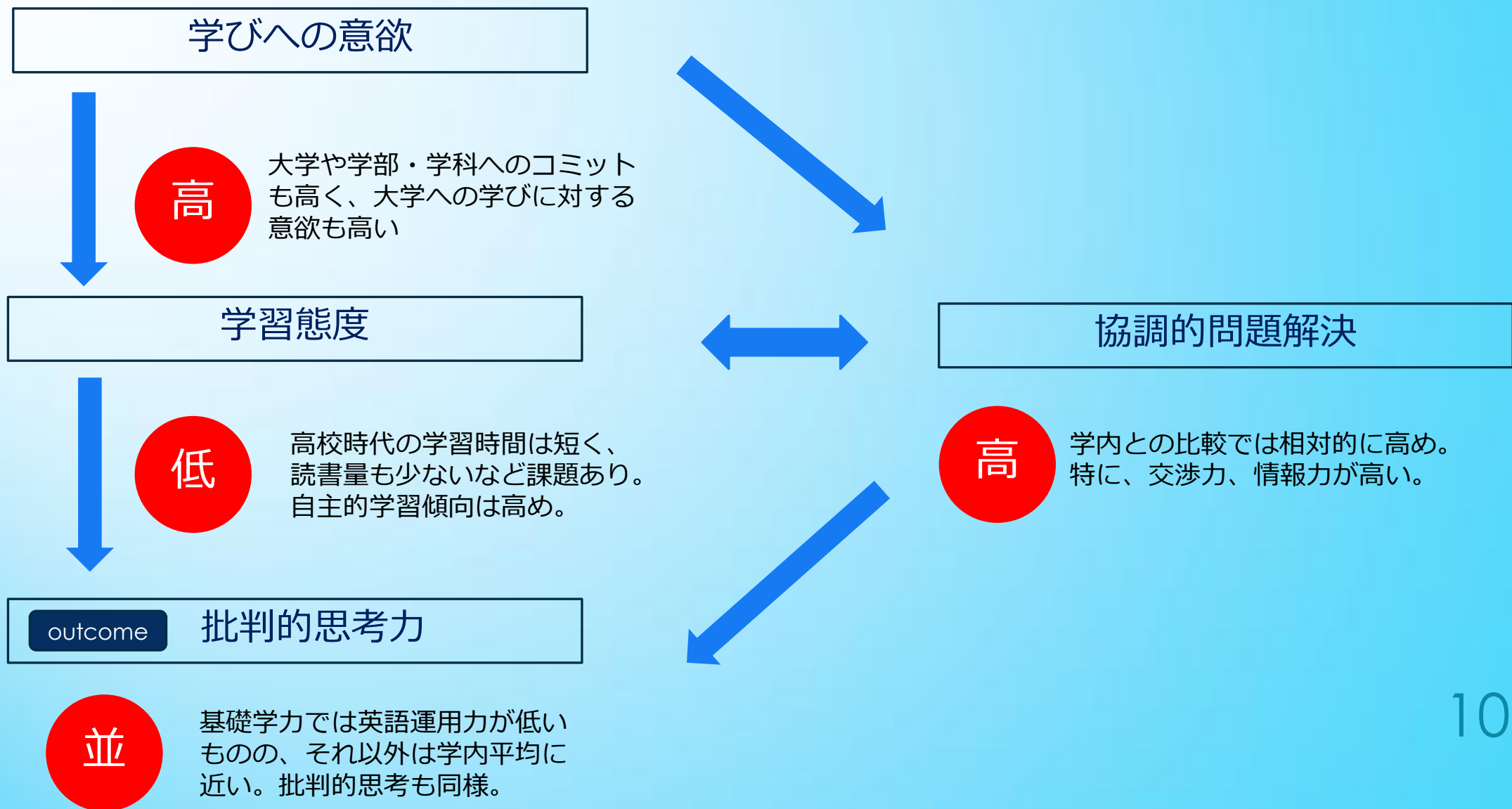
特定の入試形態（アサーティブプログラム・アサーティブ入試）を選択した学生が入学後にどのような成長を遂げるのかを検証すること。

【使用データ】

ベネッセiキャリアが実施する「大学生基礎力調査」Ⅰ[新入生版] および Ⅱ[在学生版]



大学生の学びと成長を可視化する (1)



大学生の学びと成長を可視化する（2）

<アサーティブ入試で入学した学生の成長実感の事例調査>

入学後、成長したと思った出来事は？何について成長したと思ったか？

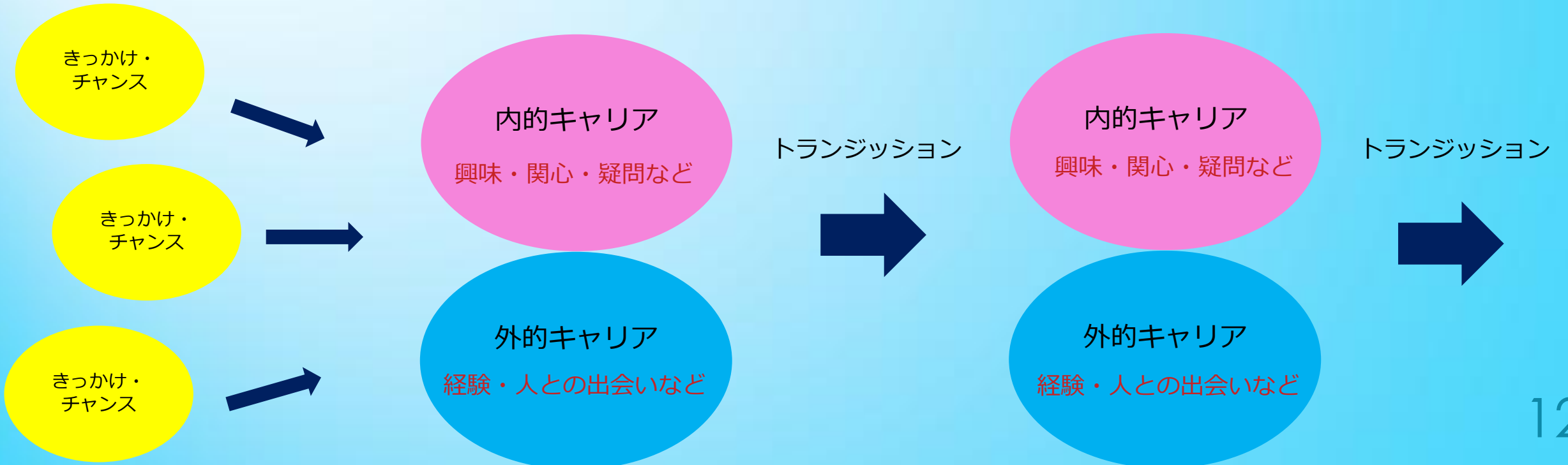
- Aさん：ずっと部活やっていてサッカーのことしか考えていなかったが、「人とのつながりがほしい」と考え方が変わったり、「とりあえずやってみようか」という考え方に、大学に入ってなって、成長したと思う。
- Bさん：積極的に物事に取り組めるようになったかなーというのが、一番成長したと思うこと。高校生のときは、考えていてもそれを行動に移すことが少なかったと感じたけど、大学に入ってボランティアも始めたし、アサーティブのオープンキャンパスの手伝いも。かな？
- Cさん：将来について、現実的になった。今までは女優になりたいという意味だけはあって、目標を達成するための理想とか、こうだったらいいなしかなくて、そこへ行きつくために具体的に何をしたらいいかがあんまりよくわかってなくて、わかってたつもりでも一歩が踏み出せなくて、考えて終わり・考えて満足している人だったが、それじゃだめだ4年間しかない、と気づいた。
- Dさん：人と話すことの重要さに気が付いた。まず大学に入って困ったことが…大学でやることってキャパがすごい大きくて、僕一人の手にはどうにも負えなくて、となったときに、友達に「これどうしたらいいか」と聞くようになった。

3. 今後の進め方

入学後の成長支援も視野に収める

キャリア成長の視点から以下の3指標を軸に可視化を進める

- (1) 内的キャリアと外的キャリアの経験を振り返る力(自己を知る力)
- (2) 情報・知識を探索し獲得し活用する力 (学ぶ力)
- (3) キャリア (ワークとライフ) のセルフマネジメント力 (計画する力)



内的・外的キャリアの振り返り事例

内的

興味・関心・疑問など

外的

経験・人との出会いなど

<きっかけ・チャンス>

アサーティブスタッフ研修
in 名桜大学



自分の意見を強く持つことはとても重要だと感じた

自分たちには主体性が少ないと感じた

シンプルに楽しかった、仲良くなれた

ウェルナビの学生と話し合う

ウェルナビの研修を見学

アサーティブスタッフと寝食を共にした

とても面白いアイスブレイクだと感じた

物理的な環境も重要である

とてもメリハリがきちんとしている

研修のアイスブレイクに参加

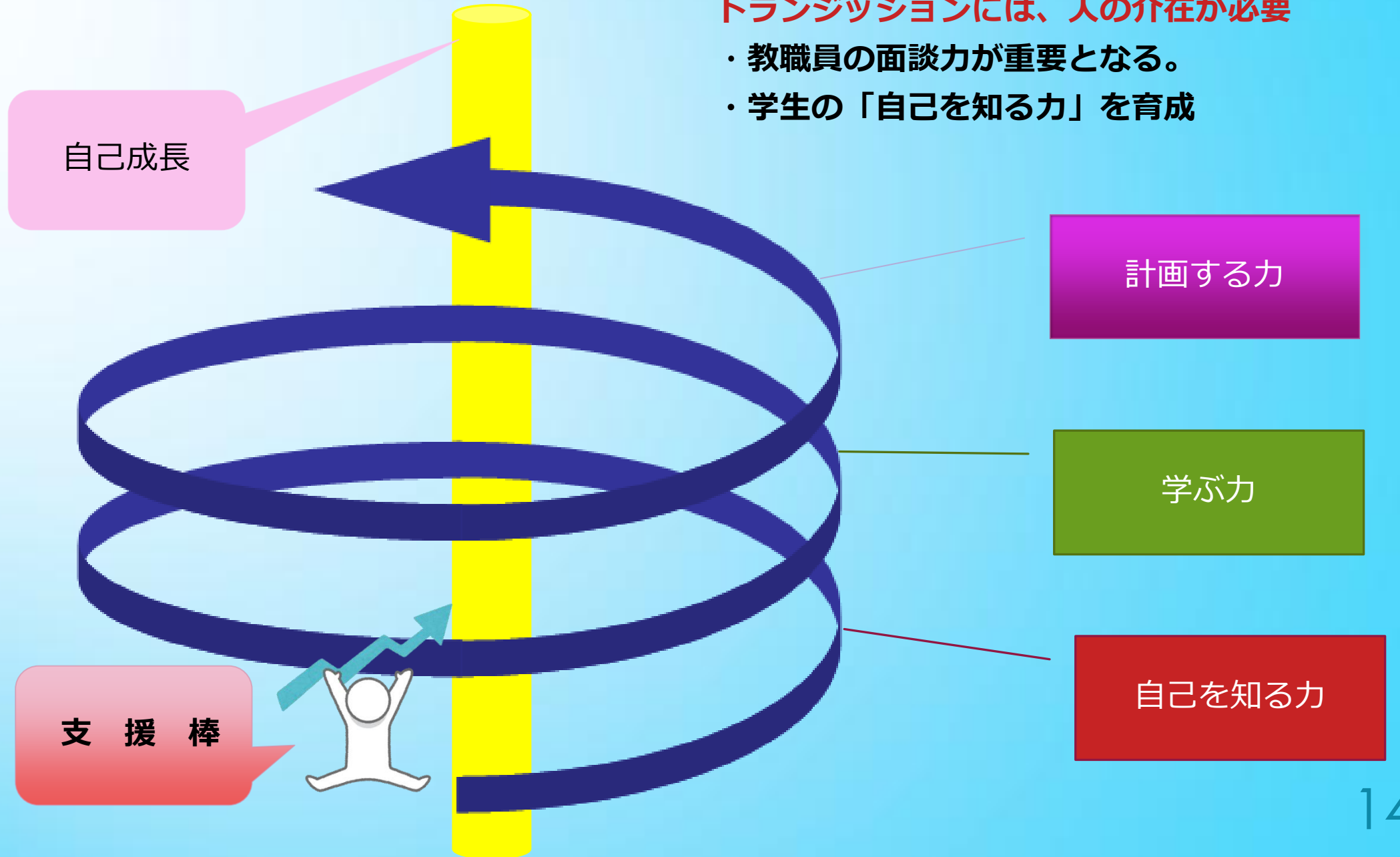
サクラウムやOISTを見学

名桜大学の人と交流を行った



報告書
&
提案書

成長支援の考え方



トランジッションには、人の介在が必要

- ・ 教職員の面談力が重要となる。
- ・ 学生の「自己を知る力」を育成

ご清聴ありがとうございました